

Silk Central 13.0

リリースノート

Micro Focus
575 Anton Blvd., Suite 510
Costa Mesa, CA 92626

Copyright © Micro Focus 2013. All rights reserved. Silk Central は Borland Software Corporation に由来する成果物を含んでいます, Copyright © 2013 Borland Software Corporation (a Micro Focus company).

MICRO FOCUS, Micro Focus ロゴ、及びその他は Micro Focus IP Development Limited またはその米国、英国、その他の国に存在する子会社・関連会社の商標または登録商標です。

その他、記載の各名称は、各所有社の知的所有財産です。

2013-06-21

目次

Silk Central 13.0 リリース ノート	4
Silk Central 13.0 の新機能	5
レポート データマート	5
グローバル レポートとレポート テンプレート	5
手動テスト結果ビュー	6
グローバル検索	6
オフライン手動テスト	6
手動テストの開始と実行のアクセス許可	6
ブロック済み手動テスト	6
新しいダッシュボード パネル：現在実行中の手動テストのステータス	7
自動テストの手動テストへの変換	7
Silk Test Workbench .NET スクリプトへのパラメータの受け渡し	7
計算プロパティ	7
フロントエンド サーバー URL の外部用と内部用の区別化	7
問題の優先度	8
統合の強化	8
Atlassian GreenHopper	8
Team Foundation Server 2012	8
VMware vCloud Director	8
Web サービスの更新	8
reportData インターフェイス	8
クラウド API	8
使用技術の更新	8
サポートされなくなる機能	10
将来のリリースではサポートされなくなる機能について	11
テスト済みおよびサポートされているソフトウェア	12
システム要件と事前要件	14

Silk Central 13.0 リリースノート

バージョン 13.0

2013年5月

以下の注記には、ヘルプには記載されていない重要な情報が含まれている場合があります。注記にはすべて目を通してください。

インストール、デプロイメント、およびライセンス管理に関する情報については、『[Silk Central インストールヘルプ](#)』を参照してください。

さらに支援が必要な場合は、[カスタマーケア](#) にアクセスしてください。

Silk Central 13.0 の新機能

Silk Central 13.0 では、大幅な機能拡張と変更が導入されました。

レポート データマート

Silk Central レポート データマートは、レポート目的のデータへのアクセスを容易にします。運用テーブルから詳細レポートの作成に使用される専用のビューにデータを移動します。利点は次の通りです。

- テーブルとビューの名前が明確で、検索するデータの場所を素早く見つけることができます。
- 前処理済みのデータによって、自分で計算せずに集計済みデータにアクセスすることができます。
- レポートがより単純化され、SQL クエリが高速化されるため、パフォーマンスが改善されます。
- 運用データベースの負荷に対する依存性が低下し、パフォーマンスが改善され、負荷スパイクが削除されます。

運用データベースのテーブルからバックグラウンドで定期的にデータを抽出し、データマート テーブルとビューに読み込むことで、簡単に高速なクエリを実現します。データベースの読み込みが高価でない場合は、通常は変更がコミットされた後数分以内にこのデータは利用可能になります。Silk Central システム管理者としてログインしている場合、<http://<サーバー>:<ポート>/sctm/check/db> を実行して、**DM_TestStatus Table** を確認することで、データ読み込み処理の現在の状態を確認することができます。

レポート データ ページとエクセル エクスポートの強化

レポート > 詳細ビュー > データ ページで、ソートおよびフィルタ機能を持つ動的なグリッドでレポートの結果が表示されるようになりました。表示できるデータは、**ダウンロード データ (.xlsx)** ボタンを使って Excel にエクスポートできます。

グローバル レポートとレポート テンプレート

Silk Central に同梱されたデフォルト レポートは、すべてのプロジェクトで表示可能で、**レポート ツリー**の**グローバル レポート**の下に一覧されます。これらのレポートは変更できませんが、必要に応じてコピーを作成してカスタマイズすることができます。ユーザー独自のカスタム レポートを**グローバル レポート** ツリー内に作成すると、そのレポートもすべてのプロジェクトに対して利用可能にすることができます。また、プロジェクト ツリーと**グローバル レポート** ツリー間でレポートをコピーすることもできます。グローバル レポートの概念によって、Silk Central 内のすべてのプロジェクトで利用できるレポートを柔軟に管理することができます。

グローバル レポートでは、レポート テンプレートはまた、プロジェクト コンテキストの中から取得されません。レポート テンプレートはすべてのプロジェクトにわたるすべてのレポートに対してグローバルに利用可能です。レポート テンプレートをアップロードするクライアントのアクセス許可は、テンプレートのアップロードだけでなく、更新、編集、削除に対する許可/制限するように変更されました。

共有グローバル レポートのアクセス許可

共有グローバル レポートは、すべてのユーザーのすべてのプロジェクトで利用可能であるため、更新したり削除したりできるユーザー ロールとして、**共有グローバル レポートの管理** および **共有グローバル レポートの削除** の特別なアクセス許可が必要です。非共有グローバル レポートは、レポートの更新や削除といった標準レポートのアクセス許可を持つユーザー ロールによって更新および削除することができます。これは次の特殊なシナリオを生じさせます。

- オプション **このレポートを他のユーザーと共有する** は、ユーザーが **共有グローバル レポートの管理** アクセス権を持たない場合、グローバル レポートとフォルダでは無効化されます。
- コピーした共有レポートを **グローバル レポート** ツリーに貼り付けるときに、**共有グローバル レポートの管理** アクセス権を持たない場合は、貼り付けたレポートは非共有に設定されます。

手動テスト結果ビュー

完了または未完了のコンテキストのいずれかのテスト実行があるとき、**手動テスト結果ビュー** を使用して、添付した問題や添付情報のようなすべての情報を含む手動テストの結果ビューを簡単に参照することができます。この情報のすべては直ちに表示されます。同様に、PDF 版の印刷やダウンロードも可能です。

グローバル検索

検索... フィールドを使用すると、Silk Central のいくつかの資産に対して検索を実行することができます。次の資産がグローバル検索を実行する際の対象となります。

- 要件とそのプロパティ
- テスト、フォルダ、テスト コンテナ、およびその属性値、プロパティ、パラメータ
- テスト ステップとそのプロパティ
- 実行計画、構成スイート、テスト サイクル、フォルダ、およびそのパラメータとキーワード
- ライブラリ フォルダ、ステップ、共有ステップ
- 問題 (テストに割り当てられた問題のみ)



注: 検索インデックスは定期的にバックグラウンドで更新されます。検索結果は若干古い場合があります。

オフライン手動テスト

オフライン手動テストを使用すると、テストをダウンロードして、オフラインで完了することができます。

テスト担当者は、**ユーザーに割り当てられた手動テスト** パネルを使用して、手動テストをダウンロードして、結果を Silk Central にアップロードして戻すことができます。テスト担当者は、**オフライン手動テストの概要** パネルを使用して、ダウンロードしたテストの表示と管理を行うことができます。

手動テストの開始と実行のアクセス許可

手動テスト担当者が、Silk Central の他の領域のアクセス許可を必要なく手動テストを開始、実行することができるようにするため、新しい 2 つのアクセス許可が追加されました。

実行を開始するアクセス許可とテストを実行するアクセス許可がテスト担当者とテスト管理者 ユーザーロール、および [テストと実行の管理] アクセス許可を持つすべてのカスタム ユーザー ロールに割り当てられます。これらのアクセス許可は、テスト担当者が **ユーザーに割り当てられた手動テスト** ダッシュボード パネルにアクセスし、手動テストを選択して開始、実行できるようにするためのものです。

ブロック済み手動テスト

テストのステータスとは別に、テストをブロック済みに設定することも可能です。


IT インフラの問題などのある種の制約によって、テストを続行できないことを示すために、テストをブロック済みに設定すると便利です。

新しいダッシュボード パネル：現在実行中の手動テストのステータス

このパネルは、指定したプロジェクトのすべての実行中の手動テストのステータスを表示します。テスト管理者は、現在ブロックされているテストを確認したり、実行中の実行のうち、すでに実行されたテストのステータスを監視することができます。

自動テストの手動テストへの変換

自動テストを手動テストに変換できます。この機能は、自動テストを他のテストタイプに変換したい場合、たとえば、Silk Test Classic から Silk4J に変換したい場合に便利です。この場合、Silk Test Classic テストを手動テストに変換してから、それを Silk4J で自動化します。

 **注:** 制限事項：自動テストの手動テストへの変換は、標準的な自動テストに対してのみ機能します。パッケージ ノードやデータ駆動型ノード、およびリンクノードは含まれません。

Silk Test Workbench .NET スクリプトへのパラメータの受け渡し


Silk Central テストから Silk Test Workbench .NET テストにパラメータを受け渡すことができるようになりました。

パラメータの受け渡し方法は、既存の Silk Test Workbench ビジュアルテスト機能と同じ方法で行われます。

計算プロパティ

Silk Central は、プロジェクトごとに 5 つの計算プロパティまでサポートするようになりました。

計算プロパティは、内部プロパティやカスタム プロパティの値を使って定義した数式から計算された 1 つの値を作成するために使用されます。計算された値は、分類と呼ばれるラベル付けされた範囲に分けられます。計算プロパティを使用すると、グリッドに分類の **名前** が表示されます。計算プロパティの値は、カスタム プロパティの値が表示される場所すべてに表示されます (ドキュメントビューなど)。また、他の内部またはカスタム要件プロパティと同様に、計算プロパティをフィルタや品質目標に使用できます。

 **制限:** プロジェクトごとに 5 つの計算プロパティまで使用できます。計算プロパティを他の計算プロパティの内部で使用することはできません。

フロントエンド サーバー URL の外部用と内部用の区別化

ユーザーが Web ユーザー インターフェイスにアクセスするのに使用する URL 以外の URL を使用して、チャート サーバーまたは Issue Manager がフロントエンド サーバーと通信する必要がある場合、フロントエンド サーバーとの接続に使用する別の URL を設定できるようになりました。

ユーザーがプロキシを介して Web ユーザー インターフェイスにアクセスする場合など、チャート サーバーまたは Issue Manager はフロントエンド サーバーの内部 URL や IP アドレスを使用するため、必要になります。

問題の優先度

問題の優先度がテストの問題ページと [割り当て済み問題] ダッシュボード パネルに表示されるようになりました。

外部の問題追跡システムで定義されている優先度が表示されます。この機能は、次の問題追跡システムでサポートされます： Atlassian JIRA、Bugzilla、Silk Central Issue Manager、および StarTeam。

統合の強化

このセクションは、Silk Central で行った統合の強化の一覧を提供します。

Atlassian GreenHopper

Silk Central は Atlassian GreenHopper との要件統合を提供します。これは、プロジェクトと問題追跡システム JIRA に基づきます。標準タイプのすべての課題タイプ (JIRA の汎用オブジェクト タイプ) を同期することができます (サブタスク課題タイプは同期できません)。Atlassian GreenHopper では、カスタム課題タイプを作成することができ、同期したい Atlassian GreenHopper 課題タイプのリストを Silk Central に指定できます (たとえば、Bug または Improvement など)。エピック (Epic) 課題タイプは、階層要素としてインポートされます。他のすべての課題タイプには階層はありません。

Team Foundation Server 2012

Silk Central が Microsoft Team Foundation Server 2012 をサポートするようになりました。

VMware vCloud Director

Silk Central が VMware vCloud Director をサポートするようになりました。

Web サービスの更新

このセクションは、Silk Central Web サービスに行われた変更の一覧を提供します。

reportData インターフェイス

reportData インターフェイスで、追加の projectID パラメータが必要になりました。

クラウド API

クラウド API は、Silk Central の将来のバージョンで変更される可能性があります。この API を使用する場合は、Silk Central の将来のバージョンにアップグレードする際に、実装も更新する必要となる可能性があります。

使用技術の更新

Microsoft Windows Server 2012 および Microsoft Windows 8 のサポート

Silk Central 13.0 は、フロントエンド サーバー、アプリケーション サーバー、チャート サーバー、実行サーバーのインストール対象として、Microsoft Windows Server 2012 をサポートするようになりました。

Microsoft Windows 8 は、実行サーバーのインストール対象としてサポートされます。IIS 8.0 も完全にサポートされるようになりました。



注: Silk Central は、Windows 8 もしくは Windows Server 2012 に対して、.NET コード分析をサポートしていません。

Internet Explorer 10 のサポート

Silk Central13.0 は、Internet Explorer 10 をサポートするようになりました。

サポートされなくなる機能

このトピックでは、Silk Central 13.0 ではサポートされなくなる機能を示します。

Silk Test テスト計画のアップロード

Silk Test から Silk Central への計画のアップロードはサポートされなくなります。Silk Central Test Manager 2009 で *Silk Test* テスト計画テスト タイプが導入されたため、Silk Test から Silk Central に計画をアップロードする必要がなくなり、またこの操作は推奨されなくなりました。この新しいテスト タイプを使用することによって、Silk Test で作成される計画ファイル構造が Silk Test テスト計画ファイルの実行に合わせて動的に維持管理されるため、メンテナンスの労力が軽減されます。

Manual Testing Client

Manual Testing Client は Silk Central に同梱されなくなります。手動テスト機能は **手動テスト** ウィンドウに移動されました。この機能の詳細については、このドキュメントの「新機能」セクションを参照してください。

内部問題プロファイル

Silk Central テスト管理部分の内部問題追跡機能は削除されました。Issue Manager は、Silk Central の発展的問題追跡ソリューションになりました。内部問題追跡プロファイルで作成された既存の問題は引き続き利用可能で、これらの問題を編集することができます。ただし、内部問題を新規作成することはできません。問題の追跡には Issue Manager を使用してください。

Upload Manager

Silk Central では、**Upload Manager** がサポートされなくなります。データベースをアップグレードするとき、**ファイルプール** からすべてのファイルがアプリケーション サーバーに保存されます (例 : C:\¥ProgramData¥SilkCentral)。ファイルは、FilePool_exported_on_<日時> という名前のフォルダに保存されます。

ファイルプール

Silk Central では、**ファイルプール** がサポートされなくなります。ファイルプールとは、Silk Performer の .ltz ファイルを Silk Central にアップロードするときに使用されていたものです。この Silk Performer の機能が削除されたため、**ファイルプール** も削除されました。データベースをアップグレードするとき、**ファイルプール** からすべてのファイルがアプリケーション サーバーに保存されます (例 : C:\¥ProgramData¥SilkCentral)。ファイルは、FilePool_exported_on_<日時> という名前のフォルダに保存されます。

将来のリリースではサポートされなくなる機能について

このセクションでは、将来のリリースではサポートされなくなる予定の Silk Central の機能を示します。

Concurrent Versions System (CVS) のサポート

将来のリリースでは、Concurrent Versions System (CVS) とのインテグレーションはサポートされなくなる予定です。

Microsoft SQL Server 2005 のサポート

将来のリリースでは、SQL Server 2005 とのインテグレーションはサポートされなくなる予定です。

データ駆動型オプション

将来のリリースでは、異なる入力データを用いたテストを実行する機能が簡略化されます。異なるデータの行は **テスト** 領域で表示されなくなり、結果領域のみで表示されるようになります。失敗した単一データ行を再実行することは可能です。

リンクされたテスト コンテナ

将来のリリースでは、リンクされたテスト コンテナは削除されます。Silk Central におけるこの機能の主な目的は、Silk Test Classic 計画ファイルのインポートをサポートすることでしたが、テスト パッケージ機能を使用することによって、実行するたびに Silk Central のテスト構造が更新されるためメンテナンス作業を軽減することができ、より良く Silk Test Classic 計画ファイル テスト タイプをサポートすることができます。

混在した実行計画

将来のリリースでは、自動実行計画で 1 つの実行計画に自動テストと手動テストを混在させることはサポートされなくなります。手動テストと自動テストのより洗練された組み合わせは、依存関係によって実現可能です。

古い要件 Web サービス

将来のリリースでは、古い要件 Web サービスはサポートされなくなる予定です。要件 Web サービスは同等の機能を持っており、今後も定期的にメンテナンスされます。

Lab Manager とのインテグレーション

将来のリリースでは、Lab Manager とのインテグレーションはサポートされなくなる予定です。Silk Central では、現在の Lab Manager の機能に代わる新機能を提供します。

Windows サービスとして実行サーバーを起動/実行する

将来には、Windows サービスとして実行サーバーを実行するオプションは削除されます。これは、この機能がさまざまなテスト タイプのすべての機能をサポートするわけではなく、昔から存在するという理由だけで残されているためです。

テスト済みおよびサポートされているソフトウェア

このセクションでは、Silk Central 13.0 がテストされたソフトウェア、および Silk Central がサポートするソフトウェアの一覧を示します。

アプリケーション、フロントエンド、実行、およびチャートの各サーバーは、特に記載がない場合、32 ビットオペレーティングシステムの構成で検証されています。64 ビットの構成もサポートされますが、サービスが 32 ビット JVM に基づいているため、パフォーマンスは向上しません。

サポートするオペレーティングシステム

- Windows Server 2003 R2 サービスパック 2
- Windows Server 2008 R2 サービスパック 1 64 ビット
- Windows Server 2012
- Windows XP サービスパック 3
- Windows XP 64 ビット サービスパック 1 (実行サーバー)
- Windows Vista Ultimate 32 ビット (実行サーバー)
- Windows 7 32 ビット/64 ビット サービスパック 1 (実行サーバー)
- Windows 8 32 ビット/64 ビット (実行サーバー)

サポートする Linux オペレーティングシステム

Silk Central は、Linux オペレーティングシステムを実行サーバーに限りサポートします。

- Debian
- Redhat Enterprise Linux
- Suse Linux
- Ubuntu

サポートする Web ブラウザ

- Google Chrome
- Internet Explorer 8、9、10
- Mozilla Firefox

サポートする Web サーバー

- IIS 6 32 ビット/64 ビット
- IIS 7 32 ビット/64 ビット
- IIS 8 32 ビット/64 ビット
- Micro Focus スタンドアロン Web サーバー (Tomcat)

サポートするデータベース管理システム

- Microsoft SQL Server 2005 サービスパック 3
- Microsoft SQL Server 2008 R2 サービスパック 2
- Microsoft SQL Server 2012 サービスパック 1
- Oracle 10g (バージョン 10.2.0.5)
- Oracle 11g (バージョン 11.2.0.3)

サポートする統合された Micro Focus ソフトウェア

- CaliberRDM 10.1
- CaliberRM 10.1
- Caliber 11.0 (ホットフィックス 1 が必要)
- Silk Performer 9.5、10.0
- Silk Test 13.5、14.0
- StarTeam 12.5、13.0
- SilkTestPartner 6.3

サポートする統合されたサードパーティ ソフトウェア

- Bugzilla 4.0
- Compuware Quality Manager (Changepoint 2010 SP1、Changepoint 2009、Changepoint 2009 SP2)
- IBM Rational ClearQuest 2003.06.15.734.000
- IBM Rational DOORS バージョン 9.3、9.4
- IBM Rational Requisite Pro 7.0.0.0
- JIRA 4.4、5
- Atlassian GreenHopper 6.1.4.2 (JIRA 5.2.8 ベース)
- JUnit 4.11 以降
- Microsoft Office Excel (.xlsx) (テストのインポート用)
- Microsoft Office Word (.doc、.docx) (要件のインポート用)
- Rally
- SAP Solution Manager 7.1
- Subversion 1.6.x
- Team Foundation Server 2010、2012
- VersionOne Enterprise Edition
- VMware vCenter Lab Manager 4.0.4
- VMware vCloud Director 5.1

サポートする Java

- Java Development Kit (JDK) 7 以降
- Java Runtime Environment (JRE) 6 以降

システム要件と事前要件

サーバー システムの要件

アプリケーション、フロントエンド、実行、およびチャートの各サーバーは、特に記載がない場合、32 ビットオペレーティングシステムの構成で検証されています。64 ビットの構成もサポートされますが、サービスが 32 ビット JVM に基づいているため、パフォーマンスは向上しません。

システム対象	要件
CPU	Intel Core i5、または同等の CPU
メモリ	最低 4 GB
空きディスク容量	最低 30 GB、データベース サーバーを除く
ネットワーク	100 Mbit
フロントエンド、アプリケーション、およびチャートの各サーバーのオペレーティングシステム	<ul style="list-style-type: none">• Windows Server 2003 R2 サービスパック 2• Windows Server 2008 R2 サービスパック 1 64 ビット• Windows Server 2012
実行サーバーのオペレーティングシステム	<ul style="list-style-type: none">• Windows Server 2003 R2 サービスパック 2• Windows Server 2008 R2 サービスパック 1 64 ビット• Windows Server 2012• Windows XP サービスパック 3• Windows XP 64 ビット サービスパック 1• Windows Vista Ultimate 32 ビット• Windows 7 32 ビット/64 ビット サービスパック 1• Windows 8 32 ビット/64 ビット• Debian• Redhat Enterprise Linux• Suse Linux• Ubuntu
Web サーバー	<ul style="list-style-type: none">• Tomcat• IIS• Apache、ロード バランサとして使用
データベース管理システム	<ul style="list-style-type: none">• Microsoft SQL Server 2005 サービスパック 3• Microsoft SQL Server 2008 R2 サービスパック 2• Microsoft SQL Server 2012 サービスパック 1• Oracle 10g (バージョン 10.2.0.5)• Oracle 11g (バージョン 11.2.0.3)
電源供給	停電時のリスクを減少するため、すべての環境に対する無停電電源装置 (UPS)



注: Silk Central をエンタープライズ システムとしてインストールするには、Silk Central の各サーバーを個別のマシン上にインストールします。これらサーバーには、アプリケーション サーバー、フロントエンド サーバー、チャート サーバー、実行サーバー、および、データベース システムなどが含まれます。この方法については、『Silk Central 13.0 インストール ヘルプ』の「カスタム インストー

ル」に概要が記載されています。これらのコンポーネントは、好きな組み合わせで、複数のマシン上にインストールすることが可能です。

Silk Central の最適な構成の詳細については、テクニカル サポートまたはテクニカル アカウント チームにお問い合わせください。

実行サーバーの要件

実行サーバーに対する実際の要件と前提条件は、テスト対象のアプリケーション (AUT) やテストのタイプに依存します。

負荷テストについては、Silk Performer の環境要件を参照してください。最小限の構成での負荷テストは、不正確な結果につながります。

機能テストについては、Silk Test の環境要件を参照してください。Web ブラウザのリプレイなど、集中的なテストについては、最小 1024 MB のメイン メモリが推奨されます。

仮想化

Silk Central は仮想インフラストラクチャ環境（たとえば、VMware ESX Server）での実行がテストされています。最適なパフォーマンスのためには、物理ハードウェアを使用することをお勧めします。

クライアント側のシステム要件

システム対象	要件
プロセッサ	Intel Core i3、または同等の CPU
メモリ	1 GB
空きディスク容量	1 GB
Web ブラウザ	<ul style="list-style-type: none">• Google Chrome• Internet Explorer 8、9、10• Mozilla Firefox